

「配慮が必要な子どもを含めたインクルーシブ保育・教育の啓発」の取組み（愛媛県松山市の場合）

松山市の取組

保育所だけでなく、認定こども園、幼稚園、地域型保育事業、認可外保育施設（企業主導型保育事業含む）も含め、**市内すべての施設を対象**に、配慮を必要とする子どもへの理解を深め、実践する保育士等のサポートとなるよう、**これまでも巡回支援や発達支援実践研修会を開催**し、市内のインクルーシブ保育・教育の啓発を実施。

職員派遣によるサポート内容

1. 保育所に、秩父学園職員（児童指導員）が訪問して、園児の様子や保育の様子を観察し、園児についての見立てや助言を実施。
2. 市内の保育教諭、幼稚園教諭、保育士を対象に、『配慮が必要な子どもを含めたインクルーシブ保育・教育について』をテーマに、秩父学園職員が講師となり、クラス保育・教育を行う上で配慮すべきこと、関わり方等について、訪問先での様子も踏まえつつ、講義形式の研修を実施。

【職員派遣のスケジュール】

- 4月 21日 松山市から職員派遣の申込
「困り事」や希望する支援等の要望を確認後、具体的な支援内容を調整。
- 11月12日 松山市内のA保育所を訪問
午前：対象児童2名と、その支援状況や保育環境を観察
午後：各児童の見立て、今後の支援の提案、助言等（A保育所以外の保育士等も参加）
- 11月13日 前日の訪問での様子も踏まえつつ、「インクルーシブ保育・教育について」～個別の環境支援（視覚支援）・支援のアイデア～をテーマに秩父学園職員による講義（参加者：41人）
※参加者の内訳：認定こども園9名、幼稚園6名、保育所21名、地域型3名、認可外2名
- 2月17日 オンラインによるフォローアップを実施



↑ 研修会の様子

スモールステップ

- ・うまくはめて育てるために、はめる基準を下げ、少しずつステップアップしていく。最終的にゴールにたどりつくようにする。結果として、「できた！」という成功体験を効果的に体験してもらい、自信・意欲を上げてもらう。
- ・例えば、10ピースパズルを5ピースはめておいて、5ピースから
- ・例えば、難しい食べ物は一晩、好きな物たくさんから！
- ・例えば、園庭活動への参加は、道端で見学から。
- ・発達に合った目標設定をする。

派遣先の希望に応じた事例や内容で、研修会の資料を構成

【研修会参加者アンケートより】

- 具体的な話しや、カラー写真やその使い方を聞くことが出来、現場で使えるものを知ることができ、確認することが出来た。園に戻り、職員に報告し広めたい。
- この子にとってどういう支援が必要か、何処までの支援をしいいか、今日の研修で色々な支援の仕方を思いつくことが出来ました。今後、卒園まで時間は少しですが、やれることを続けたいです。